

平成24年度 教師海外研修 研修報告書

派遣国：タンザニア

学校名：川崎市立宮前平中学校

担当：英語

氏名：下辻 孝美

1. 今回の研修における目的やねらい

私は開発教育を実践したいと思い教員になりましたが、どのように開発教育を学校の授業の中で取り入れたらよいかかわからず、いつも単発的な授業しかできませんでした。継続して授業を行うことでただ「知る」だけでなく、生徒一人ひとりが「考える」「実行する」ような授業づくりをしたいと考えていました。この研修を通して、タンザニアから私が学んだことを授業に取り入れ、開発教育の方法を学びたいと考えました。また、開発教育を通して、生徒一人ひとりが世界で生きる一員としてどのように生きていくかを考えさせたいと思い、実践授業が今回の研修の中で行えることが参加したねらいです。

タンザニアはもちろん、アフリカの国に行くことは今回初めてであり、自分が新しい気持ちで関わることができる国であり、知らなかったことを学んでいく気持ちは生徒と同じではないかと思いました。自分が新たに感じたことや気づき、人々の声など実際にタンザニアに行かないとわからないことを多く授業に取り入れたいと思いました。

2. 目的やねらいがどのくらい達成されたか

実践授業はこれからですが、事前の研修から開発教育について学ぶことができ、授業方法についてもいろいろな方法を教えていただけたことはとても勉強になりました。今後、私自身の授業として教えていただいたことをアレンジし、実践していきたいと思います。また、タンザニアに連れて行っていただき、実際に現地の方とたくさん話ができ、現地で活躍する日本人の方のお話が聞けたことが何よりの財産です。ただの旅行ではなかなか体験できないことをさせていただきました。タンザニアに実際に行き、自分の目で見て、肌で感じ、人々と触れ合ったことで、授業で生徒に実際に伝えるときにリアリティが増すだろうと思います。あとは、自分自身がタンザニアで学んだことをどのように授業に活かすかがポイントだと思います。

3. タンザニアから学んだこと

数えきれないくらい多くのことを学ばせていただきました。私の印象に残っていることは、いろいろな部族に所属し、宗教を信仰している中で、人々が共存しているということ。マサイ族の方の中には、民族衣装を着て生活している人もおり、またイスラム教徒のアザーンが町中に響き渡っていてもそれが人々の生活にはあたり前のこととなっています。初代大統領のニエレレ大統領が「いろいろな部族、宗教があり、立場もそれぞれ違っていても、まずは協力しよう」と国民に言ったそうです。その考えが生きている国であると実感しました。自分のアイデンティティに誇りをもって生活している人々の姿に心打たれました。

また、イフンダ中学校の先生方との意見交換の中で「日本の子どもたちにタンザニアの何を伝えてほしいか」という話をしたときに、「タンザニアは平和であるということ伝えてほしい。また、私たちはお互い愛し合って生活している、ということ伝えてほしい。」ということでした。日本は、集団で動く力、協力する姿勢、は非常に強いのですが、果たしてこの先生がおっしゃった「愛し合っている」ような人間関係をどれだけつくることができているのだろうか、と疑問に思いました。この愛し合う関係ができれば今日本を取り巻くいじめの問題、自殺の問題、心の病など少しはよくなるのでしょうか。もちろんどれも単純な問題ではありませんが…。タンザニアを通して日本のことを深く考えさせられてしまいました。

人々は、自分たちの力で村の生活をよくしたい、暮らしをよくしたい、と一生懸命であり、エネルギーを

提出期限：平成24年8月16日（木）

感じました。そのエネルギーが少しずつかたちとなって人々の生活環境がよくなることを願っています。そのために、「自分にできることは何か」を明確にしていきたいと思います。少しでもタンザニアの方から学んだことに対して、恩返しできたらと思います。

4. 今回の研修経験をどのように教育活動に活用しようと思っているか

タンザニアでの研修を学年の総合の時間で授業を行える機会を得たので、11クラスで授業を実践していきたいと思います。また、今後の教員人生の中で、総合を利用して開発教育の授業を行えるような提案を学年や学校の中でしていきたいと思います。そして今回の研修経験をタンザニアだけではなく、自分が専門としているフィリピンを題材に授業を実践したり、総合だけではなく、英語の授業や様々な場面で実践していきたいと思います。

5. 今回の研修に参加してよかったことや、よりよくするための提案

今回の研修で、多くの事業を見せていただきました。様々な分野を見せていただいたから気づけたことがたくさんあったように思います。行く前までは、学校滞在の時間が短く、もう少し長いほうが良いのでは、と思っていましたし、そのような意見も多かったのですが、では仮に他を削るとすると…と考えるとどの場面も大変勉強になりました。強いていえば、学校の子どもたちとの関係をつくれたら、とは思いますが、今回のようなかたちであると隊員さんに負担がかかってしまいます。また、私たちを受け入れてくださる村の方々の負担がとて大きくなってしまいます。私たちがいただいた食事代はどのように負担されているのか…考えてしまいます。そのようなことを考えると長時間の滞在は難しいのかな、と思います。村や学校の負担にならないで、ギブ&テイクの関係が訪問によってできると良いと思います。

参加者との意見交換は大変有意義でした。普段、日本で生活していて同業者とこのような意見交換をしないので、とても勉強になりました。また同じ志をもった先生方にお会いすることができ、とても刺激になりましたし、今後も何か一緒に取り組めるのでは、と楽しみにしています。

6. その他、研修全般を通じての感想・意見など

毎日が新しい発見、気づきでこの10日間、本当に充実した日々でした。普段仕事をしていて感じられないようなワクワク感がありました。新しいことを学ぶ喜び、気づいたときの喜びなど生徒の気持ちになったような気がしました。このような気持ちでタンザニアの研修を終えられたのも、足立さんをはじめJICAタンザニア事務所のみなさんのお力と、日本から同行していただいたJICA横浜の田中さん、宮本さんのお力だと強く感じています。私たちが笑顔で帰ってこられたのも、もっと～したほうが…という意見が出るのも、安全を確保してくださったJICAのみなさんのおかげだと思っています。本当にありがとうございました。

私たちの研修はタンザニアに行き終わりではなく、むしろこれからどのように授業の中で実践していくかが大切であり、子どもたちにタンザニアについて伝えていくことが果たさなくてはならない責任だと思います。開発途上国に対して「自分にできることは？」が常に課題であった私にとって、今回の研修は自分自身、少し前に進めるきっかけになりました。教員として生徒に与える影響は大きいので、教員としてまずできることを地道にやっていこうと思います。

7. 今後の本研修参加者へのアドバイスなど

どんな些細なことでも自分次第で気づきになり、学びになると思います。見ているだけでも気づけること、疑問に感じられることがたくさんあると思います。いかに自分で問題発見できるかが研修を有意義にできるかどうかだと思います。「なぜ～？」という一つひとつの問い・疑問を大切にすると、より多くの気づき、学びにつながっていくと思います。

8. 各訪問先等の所感

日時	テーマ	所感
7月29日(日)	日本からタンザニアまでの移動中および現地到着	いよいよ出発ということもあり、成田では少し緊張。みなさんに会うことで少し緊張は薄れ、道中いろいろなお話できて楽しかった。飛行機の中では、タンザニア60章を読んだり、スワヒリ語を勉強したり、映画を見て過ごした。ドーハでのトランジットは、見慣れないアラビア語やドーハの熱風を少しでも感じる事ができて非常におもしろかった。ダルエスサラームに到着したとき、天気はカラっとしていた。人も多く、少し緊張感が湧いてきた。
7月30日(月)	JICA タンザニア事務所表敬	事務所では勝田所長さんのお話を聞く。私にとって一番印象に残った言葉は“Capacity Development”である。「全体の能力をあげる」というもので、JICA がプロジェクトを行う際に取り入れている。日本的な考えであるが、これがタンザニアで受け入れられているのか、気になった。
7月30日(月)	本日の振り返り	夜、思っていたよりも気候が寒く、驚きだった。また、ダルエスサラームの町並みも私がイメージしていたアフリカとは異なり、整っていた。車も大きく、新しいものが多く、「都会」という言葉が合う町である。驚いたことは、マサイ族の方がホテルのガードをしていたこと。私はマサイ族はダルエスでは生活していないと思っていた。都会の中にも、部族がはっきりとわかるかたちで生活していることに非常に興味をもった。
7月31日(火)	JICA タンザニア事務所研修ブリーフィング	次長さんのお話でタンザニアは経済成長が6%と聞く。外貨が入りやすくなったことも一つの要因。どこかフィリピンと似ている気がした。フィリピンと照らし合わせて、外貨の流入で国内格差が大きくなっていることが頭をよぎった。今後のタンザニアが心配になった。自国の生産、自国の政策が必要となってくるだろうと思った。また、援助の仕組みが学校の先生の役割と似ている、と感じた。先生が全部子どものためにやってあげることがためにならない。援助も同様で、全部やってあげてはだめ、よりそって持続可能な開発となるのが大切である。 教育部門では中学校への進学率が低いことに驚いた。ほとんどの人が初等教育まで。やはり、知識として得られるものは日本の学校と大きく異なる。日本の子どもたち

提出期限：平成24年8月16日（木）

		<p>が恵まれている、ということだけでなく、私たち教員、大人も今の学校に甘えているのではないかと強く思った。学校現場で議論されているマイナスなことがとても小さいことのように思える。</p> <p>道路部門では、道路の必要性を学ぶ。信号機も道路も日本の支援が多い。タンザニアの技術で作ることができる道路を。そのために人づくりに力を入れている。</p> <p>水道部門では、水道の種類を2種類学んだ。水道が家にあることが少ないということを改めて気付かされる。水くみは女性が行うことが多いということも気になった。</p>
7月31日(火)	市内視察（教材購入）	<p>昼食を大衆食堂でいただき、その後、郵便局と本屋さんへ。日本では見られないものが町の中にあふれていて、写真を撮りたいという気持ちでいっぱい。でも、写真を撮る外国人をタンザニアの方はどう思っているのだろうか。</p>
7月31日(火)	本日の振り返り	<p>参加メンバーのこの3日間で印象的、疑問、気になっていることについて振り返った。私は、マサイ族のこと、アザーンのことから、この国の人々がお互いを認め合って、共存している、そんな文化が印象的だった。</p> <p>また、写真については皆同じ感想。写真を撮る、撮らない、撮る側、取られる側の気持ちを考えた一日となった。その他、子どもに意味のある「問い」は何か。頭を悩ませた。この後の研修の中でみつけないかなくては、強く思った。</p>
8月1日(水)	ミクミ国立公園、タンザム幹線道路改修計画	<p>ミクミ国立公園通過の際、ぞう、きりん、しまうま、鹿などの動物を近くで見て、感動した。本物を見ている気がしなかった。イメージしていたアフリカを見た気がした。道中、外を眺めながら、ダルエスとの風景の違い、そこから人々の暮らしの違いを感じることができた。JICAが作った幹線道路は山道のカーブにあり、道路を作るまでに相当な労力がかかったことが予測された。</p>
8月1日(水)	イリング隊員との懇談	<p>イリングの協力隊のみなさんとお会いすることができ、その中で隊員の方の仕事のお話や暮らし、そして悩みなどを聞くことができた。専門家ではなく、誰でもチャンスのある協力隊というポジションはの方から話を聞くことができ、とても親しみを感じることができました。</p>
8月1日(水)	本日の振り返り	<p>イリングへの移動の途中、初めて子どもと触れ合う場面があった。恥ずかしがり屋な一面をもっていながらもこちらに興味をもっている様子がうかがえた。明日からいろいろな子どもたちと関わるができるのが楽しみ。タンザニアでは、家具屋が多い。家具が道路や店の外に</p>

提出期限：平成24年8月16日(木)

		もたくさん並んでいる。家具が示す意味、何か家具がタンザニアの人の暮らしに影響を与えているのだろうか。
8月2日(木)	クレルー教員養成学校 横山隊員	未来の教員たちとグループでディスカッションを行った。日本の経済発展はどのように行われたのか、日本の教育の問題は何か、など話が出た。自分が答えられなかったのは、「タンザニアの学校には一クラス60~70人生徒がいる。その中でどのように授業が効果的か?」というものだった。「私たちにアドバイスがほしい」と言われた。タンザニアの現状を知っておきながら、「自分だったらどうするか」ということを考えていなかったことを深く反省した。
8月2日(木)	イフンダ中等学校 幾山隊員	中学校で日本の紹介と広島授業を行った。実際に英語で授業をやってみたが、自分のやり方ではあまり楽しんでもらえなかった気がした。日本の学生がおもしろいと思う感覚よりも、学びたい、と思っている気持ちが伝わってきた。ただ、今の日本のファッションを取り上げた雑誌を見せて、プレゼントすることを伝えたときの表情は嬉しそうで女の子という感じで日本と変わらないことを実感した。広島原爆投下や今でも放射能に苦しんでいる人がいることには興味があるようだった。
8月2日(木)	本日の振り返り	スワヒリ語、という言語の強さを感じた一日だった。振り返りの中でも私たちの間でスワヒリ語への感想が多く出ていた。多くの民族がともに生活している中で、スワヒリ語でつながっている。スワヒリ語を大切にすることで、言葉でつながり合える。 また、グループでディスカッションできたことでみんなで話しやすくもなり、よかったという意見が多かった。
8月3日(金)	ンゴメ小学校 谷村隊員	学校全体で歓迎してくれた。子どもたちの踊りや歌に感動した。また、私たちが行った授業も楽しそうに受けてくれた。自分が中学校でクラスのみみんなに作ってもらったものを持っていくことができよかった。クラスの生徒とタンザニアの子どもたちが繋がったと思った。
8月3日(金)	コミュニティ訪問	診療所を見せていただいた。診療中にも中に診察室に通される私たち。患者さんに申し訳ない、と思った。また水道の管理をしている方にお家の中を見せていただいた。私たちが家の中を見せてもらうことでどのような気持ちになっているのか、と考えた。おじさんは優しく快く見せてくれたが、自分が逆の立場だったら断ってしまうだろう。
8月3日(金)	Mkwawa 博物館	博物館ではムクワバの活躍を学ぶことができた。ドイツ軍と闘ったリーダーとして、人々から慕われていること

提出期限：平成24年8月16日（木）

		<p>がわかった。改めて、タンザニアの人々が部族を大切にしている、その部族のリーダーを尊敬していることがわかった。</p>
8月3日(金)	本日の振り返り	<p>小学校でお客さんとして歓迎を受けたり、コミュニティ訪問でも快くいろいろな場所を見せていただいた。私たちが日本で伝えていく責任は重い。どのように伝えていくかを考えた。小学校では楽しい時間を過ごしたが、楽しいだけで終わってしまい、落ち着いて考えたり、観察することができなかった。</p>
8月4日(土)	地方道路開発技術向上プロジェクト視察	<p>道路が劣悪な状況を実際に車で通り、村に行くことで言葉だけではなく、身を持って道路の必要性を感じた。また、村の方々の生の声を聞くことができ非常に興味深かった。今まで日本で暮らして道路の必要性を感じたことはなく、この研修の中でも大きな発見となった。また、村の人々が自分たちの手で道路を作ることができることを伝えてほしい、という技術者の言葉も心に残った。</p>
8月4日(土)	イリング市内視察	<p>隊員の方にお世話になり、市内を散策することができた。自分の足で歩くことで、町や人々が近く感じられた。案内していただいた隊員の方々に大変感謝しています。</p>
8月4日(土)	専門家との懇談	<p>小川専門家らとの食事会。小川さんとの話の中でやはりタンザニアの道路事情はまだまだと聞いた。フィリピンなどアジアと比べても圧倒的に状況が悪いと。また、技術者の地位も日本と海外では全く異なることを知る。</p>
8月5日(日)	イリングからダルエスサラームへの移動	<p>移動の中で、タンザニア事務所でインターンをしているローザと一緒に時間を過ごす。自分の話をしたり、ローザに写真を見せてもらったり、家族の話をしてもらった。やはり、本音、本当のことを聞くためにはお互いの関係づくりが大切だと改めて痛感する。信頼できる相手でないとはやはり話せない。</p>
8月5日(日)	本日の振り返り	<p>メンバーからも村での意見交換がおもしろかったという意見が多数あった。これをもとに私は教材の一つ考えた。木下さんは中学校の授業での流れを考えてくださった。教材づくりもみんなで共有していこうという話になった。</p>
8月6日(月)	首都圏周辺地域給水計画視察	<p>水道ができることで女性の暮らし、負担が変わることが印象的である。やはり男尊女卑がまだ感じられる。ダルでも水が引かれていない家がたくさんある。やはり、まだまだ暮らしは厳しい状況だと再び強く感じた。</p>
8月6日(月)	JICA タンザニア事務所 討論会	<p>ワールドカフェという方法で話し合いを行った。タンザニアの国内格差について話し合った。最後の質問、「タ</p>

提出期限：平成24年8月16日（木）

		ンザニアの国内格差をなくすために自分には何ができるのか」という問いに通り一遍な回答しかできなかった。とても考えさせられることである。口だけの人にはならないようにしたい。
8月6日（月）	教材購入	Tingatinga 村、Slipway などに連れて行っていただいた。買い物をする中でタンザニアの方と関わりをもてただけでもうれしい。もっと時間があれば少し話もゆっくりできただろう。
8月6日（火）	本日の振り返り	今回の研修について振り返る。また写真の共有方法などについて話し合う。
8月7日（水）	JICA タンザニア事務所 研修報告会	世界はみんな一緒に国が違うから違うのではない。国と国の壁は世界がつくっている。子どもたちがこの人たちと生きていきたい、思えるようになるのが願い。とおっしゃる安部さん、足立さんの言葉が心に残っている。
8月7日（水）	在タンザニア日本大使館表 敬訪問	大使のタンザニアに対する熱意を感じることができた。私たちの話にいろいろなコメントをしてくださったことが印象的であった。
8月7日（水）	本日の振り返り	まだまだ学びたいことがあるが本日帰国。10日ほどしかタンザニアにいないがさみしい。そしていろいろ話したローザとの別れがさみしい。今回学んだことを絶対に学校現場に活かし、絶対に自分が何らかの形で世界に貢献できる方法を見つけ、実行することを誓った。
8月8日（木）	タンザニアから日本までの 移動中および日本到着	タンザニアでの日々を振り返りながら飛行機で過ごす。日本に帰ってから感じることもあるだろう、と思い、日本への帰国も楽しみに感じた。